

オフセット・クレジット（J-VER）制度における温室効果ガス（GHG） 妥当性確認及び検証機関の暫定的な登録要件について（Ver4.0）

環境省

オフセット・クレジット（J-VER）制度（以下「本制度」という。）は、オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則（以下「実施規則」という。）1-3において、「本制度は、原則として、JIS Q 14064-2 及び JIS Q 14064-3 に準拠した制度であるとともに、プロジェクト計画書の妥当性確認及び温室効果ガス排出削減・吸収量の検証は、原則として、JIS Q 14065 で認定された妥当性確認機関及び検証機関が実施すること」と規定されているなど、JIS Q 14064-2 に準拠した制度となっており、妥当性確認機関及び検証機関（以下「妥当性確認・検証機関」という。）は、JIS Q 14064-2 によって算定された温室効果ガス（GHG）排出削減・吸収量を対象に、JIS Q 14064-3 による温室効果ガス（GHG）の妥当性確認及び検証（以下「妥当性確認・検証」という。）を行うことが求められている。

本制度を用いた、我が国における国際認定フォーラム（IAF）の品質マネジメントシステム、環境マネジメントシステム又は製品認証に関する相互承認（MLA）メンバー（以下「我が国における IAFMLA メンバー」という。）による JIS Q 14065 認定は、JIS Q 14064-2 及び JIS Q 14064-3 に準拠した妥当性確認・検証プログラムを提供する機関に対して行われることとなっているが、当該認定事業が開始されて間もないことから、我が国における IAFMLA メンバーによる、JIS Q 14064-2 に準拠した妥当性確認・検証を行う機関に対し JIS Q 14065 認定が授与されるまでの間の移行措置として、暫定的な妥当性確認・検証機関の登録要件を定めることとする。

上記措置のうち、我が国における IAFMLA メンバーによる、JIS Q 14064-2 に対応する JIS Q 14065 認定事業（以下「JIS Q 14065 認定事業」という。）開始日より2年を経過した認定分野の機関登録要件に関しては、暫定措置を終了し、当該認定分野における JIS Q 14065 認定を取得した機関であることを登録要件とするが、JIS Q 14065 認定事業の進捗を踏まえ適宜改訂することがある。

1. 暫定的な妥当性確認・検証機関の登録要件

オフセット・クレジット（J-VER）制度認証委員会（以下「J-VER 認証委員会」という。）は、原則として、妥当性確認又は検証の種別ごとかつ JIS Q 14065 認定事業の認定分野（以下「認定分野」という。）ごとに、以下のすべての要件を満たす機関を、本制度における暫定的な妥当性確認・検証機関として登録する。

① J-VER 認証委員会に妥当性確認・検証機関登録依頼書を提出していること

② JIS Q 14065 認定事業において申請が受理されていること

ただし、JIS Q 14065 認定事業において申請が受理されている妥当性確認・検証機関が一機関に満たない認定分野に限り、②に代わり、以下のすべての要件を満たす機関を、妥当性確認又は検証の審査種別ごとに、本認定分野における暫定的な妥当性確認・検証機関として登録する。

1) 本認定分野以外のいずれかの認定分野において、妥当性確認又は検証いずれか登録を希望する種別に係る JIS Q 14065 認定事業の申請が受理されていること

2) 気候変動枠組条約において対応するセクトラルスコープにおいて指定運営組織（DOE）又は認定独立組織（AIE）として登録されている機関（当該機関の日本法人を含む・法人又は法人の一部）であること

2. 暫定的な妥当性確認・検証機関の登録効力について

妥当性確認・検証機関は、J-VER 認証委員会により登録された認定分野に該当する各方法論を用いたプロジェクトに対し、登録された妥当性確認又は検証を行うことができる。

ただし、認定分野の別を問わず、妥当性確認及び検証いずれかの審査種別において JIS Q 14065 認定事業による申請が受理されている機関に限り、妥当性確認又は検証のいずれかの審査種別のみ認定申請が受理されている認定分野において、妥当性確認及び検証の双方を行うことができる（具体的には別添「補足説明」を参照）。

3. 暫定的な妥当性確認・検証機関の登録の取り消しについて

我が国における IAFMLA メンバーによる JIS Q 14064-2 妥当性確認・検証機関に対応する JIS Q 14065 認定事業において、初回認定審査が打ち切られた場合又は認定が取り消された場合は、J-VER 認証委員会は、妥当性確認・検証機関の登録を取り消すことができる。

4. 暫定的な妥当性確認・検証機関の登録の一時停止について

我が国における IAFMLA メンバーによる JIS Q 14064-2 妥当性確認・検証機関に対応する JIS Q 14065 認定事業において、認定が一時停止となった場合又は J-VER 認証委員会において本制度への準拠性等に対する疑義が提起された場合、J-VER 認証委員会は、その委員会日をもって、妥当性確認・検証機関の登録を一時停止とすることができる。ただし、緊急を要する場合は環境省が妥当性確認・検証機関の登録一時停止を行うことがある。後に同委員会が機関より提出された是正措置・改善計画を妥当と判断した場合、その委員会日をもって登録一時停止処分は解除される。

5. 方法論と認定分野の暫定的な対応について

登録された妥当性確認・検証機関は、認定分野に対応した方法論を用いたプロジェクトに対する妥当性確認・検証を行うことができる。認定分野と方法論の対応については、技術小委員会における審議の上で、J-VER 運営委員会において決議し、別途制度事務局ウェブページ上にて公表することとする。

以上

【修正履歴】

- Ver. 1.0 平成 22 年 7 月 1 日
- Ver. 1.1 平成 22 年 7 月 23 日
- Ver. 1.2 平成 22 年 9 月 14 日
- Ver. 1.3 平成 22 年 9 月 30 日
- Ver. 1.4 平成 22 年 10 月 22 日
- Ver. 1.5 平成 22 年 11 月 15 日
- Ver. 1.6 平成 23 年 2 月 1 日
- Ver. 1.7 平成 23 年 2 月 21 日
- Ver. 2.0 平成 23 年 4 月 21 日
- Ver. 3.0 平成 23 年 10 月 1 日
- Ver. 4.0 平成 23 年 12 月 28 日

※JIS Q 14064-2：プロジェクトにおける温室効果ガスの排出量の削減又は吸収量の増加の定量化、モニタリング及び報告のための仕様並びに手引

※JIS Q 14064-3：温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引

※JIS Q 14065：認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項

< 「 2. 暫定的な妥当性確認・検証機関の登録効力について」の補足説明 >

本文より抜粋（下線加筆）：

2. 暫定的な妥当性確認・検証機関の登録効力について

妥当性確認・検証機関は、J-VER 認証委員会により登録された認定分野に該当する各方法論を用いたプロジェクトに対する妥当性確認・検証を行うことができる。ただし、認定分野の別を問わず、妥当性確認及び検証いずれかの審査種別において JIS Q 14065 認定事業による申請が受理されている機関に限り、妥当性確認又は検証のいずれかの審査種別のみ認定申請が受理されている認定分野において、妥当性確認及び検証の双方を行うことができる（以下、本下線部分を「但し書き」という）※。

※「但し書き」により登録効力の判断について2段階の判断を行う。

判断①：認定分野の別を問わず、妥当性確認及び検証いずれかの審査種別において JIS Q 14065 認定事業による申請が受理されている

判断②：妥当性確認又は検証のいずれかの審査種別のみ（もしくは両方の）、認定申請が受理されている認定分野がある

判断①、判断②の両方が交わる認定分野における妥当性確認及び検証いずれかにおいて、認定申請が受理されている場合、登録効力が有効となる。

妥当性確認・検証と分野の認定申請受理状況 例

【パターン1】

判断②	分野	判断①	
		妥当性確認	検証
判断②	エネ削減	○	×
	家畜	×	○
	森林	○	×

左の状況より審査が可能となる範囲(○/●)

分野	妥当性確認	検証
エネ削減	○	●
家畜	●	○
森林	○	●

●上記「2」における「但し書き」により審査実施が可能となる範囲

【パターン2】

判断②	分野	判断①	
		妥当性確認	検証
判断②	エネ削減	×	○
	家畜	○	×
	森林	○	×

分野	妥当性確認	検証
エネ削減	●	○
家畜	○	●
森林	○	●

●上記「2」における「但し書き」により審査実施が可能となる範囲

→ 上記但し書きの要件を満たさない事例

【パターン3】

判断②	分野	判断①	
		妥当性確認	検証
判断②	エネ削減	○	○
	家畜	×	×
	森林	×	×

分野	妥当性確認	検証
エネ削減	○	○
家畜	×	×
森林	×	×

家畜分野と森林分野については妥当性確認或いは検証の認定申請受理を受けていないため、エネルギー削減分野だけで妥当性確認および検証可。

【パターン4】

判断②	分野	判断①	
		妥当性確認	検証
判断②	エネ削減	×	○
	家畜	×	○
	森林	×	×

分野	妥当性確認	検証
エネ削減	×	○
家畜	×	○
森林	×	×

各分野において妥当性確認の認定申請受理を一つも受けていないため、エネルギー削減と森林分野のみで検証可。

【パターン5】

判断②	分野	判断①	
		妥当性確認	検証
判断②	エネ削減	×	×
	家畜	○	×
	森林	×	×

分野	妥当性確認	検証
エネ削減	×	×
家畜	○	×
森林	×	×

森林分野の妥当性確認のみ認定申請受理を受けているが他分野において検証の認定申請受理を取得していないため、いずれの分野でも検証不可。